

東京都歴史教育研究会 令和6年度 秋季史跡見学会 見どころ案内

※ゴシック体は『日本史用語集』（山川出版）所収の用語

午前＝板橋宿めぐり

縁切榎と和宮下向ルート

見どころ：三代目縁切榎・和宮下向ルート

もとは旗本近藤家（井伊谷三人衆近藤家の裔）の抱屋敷にあり、いつの世からか縁切り榎とされるようになった榎の木。幕末に皇女**和宮**が**徳川家茂**に嫁ぐため中山道を下向し**板橋宿**本陣飯田家に向かう際には、この榎を避けて**中山道**から少し外れた日曜寺前（愛染通り）を通る迂回路が用いられた。（**徳川家治**室の五十宮、**徳川家慶**室の楽宮の輿入れの際も避けられている）。今では悪縁を断つ縁切りのスポットとしてにぎわっている。現代の榎は三代目で、いたばし観光センターに初代縁切り榎が展示されている。

日曜寺

見どころ：松平定信書の扁額

真言宗寺院。正徳年間に創建され、享保年間に**田安宗武**の尽力で再興。田安宗武が愛染明王像を奉献し、以来、愛染明王が本尊。田安家関係の寺宝があったが**太平洋戦争**中の戦災で多くが消失。山門の「日曜寺」の扁額の書は、**松平定信**（田安宗武七男）によるもの。

板橋

見どころ：石神井川と旧中山道の交差風景

板橋の地名の由来となった石神井川にかかる橋。『義経記』にも登場し、『江戸名所図会』などにも描かれる。江戸時代のは木製の太鼓橋であったが、昭和にコンクリート製となる。現在のものもコンクリート製だが、欄干に木目模様が施されるなど当時の雰囲気醸し出されるものとなっている。

旧憲兵隊門柱

見どころ：隊舎門柱

東京**憲兵**隊板橋憲兵分隊隊舎の門柱。板橋仲宿に所在。解説板はなく、門柱のみが**中山道**脇に残っている。板橋から十条にかけては**東京砲兵工廠**等軍事施設が多く存在したが、板橋の軍事遺構の一つである。

文殊院

見どころ：飯田静記念碑

板橋宿**本陣**飯田家の菩提寺である**真言宗**寺院。本尊の文殊菩薩は寛文年間のもの。18世紀後半の板橋宿本陣飯田家当主飯田新左衛門義朗の娘飯田静が、加賀藩六代目前田吉徳の七女祐仙院に仕えたが、若くして死去。静の弟飯田忠肅によって姉の業績を称えるために作らせた記念碑が文殊院に残っており、飯田静記念は板橋宿と前田家のつながりを示す史跡の一つである。

遍照寺

見どころ：馬頭観音

もとは**天台宗**寺院であったが、明治に廃寺となり、戦後に**真言宗**寺院として再建。江戸時代は同寺の敷地が馬つなぎ場として活用され、幕府公用馬もつながれていた。寛政年間の馬頭観音像があり、往時の名残をのこす。

観明寺

見どころ：前田家下屋敷赤門・前田家下屋敷内稲荷社

南北朝期創建とされる**真言宗**寺院。本尊は聖観音立像。加賀前田家下屋敷の通用門の赤門や屋敷内にあった稲荷社が遷され現在に遺っている。また、明治時代に当時の住職が成田不動を勧請し、それがもととなり現在の板橋宿不動通りという商店街名になっている。

東光寺

見どころ：宇喜多秀家供養碑

室町時代後期創建の**浄土宗**寺院。前田家下屋敷成立後に現在の地（前田家下屋敷隣接地）に移転。**宇喜多秀家**は、**前田利家**四女豪姫を娶っていたことから八丈島流罪後も前田家から支援を受け、明治時代には旧前田家下屋敷に宇喜多家の子孫が住むこととなった。その縁もあり、明治時代に宇喜多家子孫が前田家下屋敷に近接する同寺に宇喜多秀家供養塔を立てたとされる。

近藤勇墓・新選組隊士慰霊碑

見どころ：近藤勇及び新選組隊士慰霊塔

板橋平尾宿**一里塚**（板橋駅北口付近）付近の板橋刑場で処刑された**近藤勇**の供養塔。近藤勇は、甲州勝沼の戦いで敗北した後、下総流山で新政府軍に捕縛され、総督府がおかれていた板橋宿に移送され、処刑された。明治初頭に永倉新八が發起人となり作られ、同地には永倉新八供養碑（蜂須賀正韶書）・**新選組**隊士供養碑もたてられている。

午後＝軍都・工都めぐり

加賀西公園

見どころ：圧磨機圧輪・板橋火薬製造所有志建立の招魂之碑

旧前田家下屋敷の敷地内にあり、板橋火薬製造所関係史跡のある公園。かつての板橋宿東部に位置する加賀の地名は、この一帯に約 21 万坪の加賀藩前田家下屋敷があったことに由来する（近辺には金沢中学校もある）。幕末に加賀藩が下屋敷中を流れる石神井川の水流を大砲の穿孔のための水車の動力として利用。明治期になり石神井川の水力と旧前田家藩邸の広大な敷地を火薬製造の用地として一部を陸軍が接收（同時期に**兵部省**造兵司正に旧加賀藩士佐野鼎が就任していたことも影響か）し、陸軍の砲兵本廠板橋属廠（のちに板橋火薬製造所、後に東京第二陸軍造兵廠として改称）として操業が開始された。火薬製造用の圧磨機圧輪が、幕末期に幕臣の澤太郎左衛門により欧州から持ち帰られたが、この圧磨機圧輪の実物を利用した記念碑もたてられている。また、明治期に板橋火薬製造所で起きた爆発事故被害者慰霊のための招魂之碑も遺っている。

加賀公園

見どころ：火薬発射実験的（前田家下屋敷築山）、前田家下屋敷記念碑、旧理研板橋分所

旧前田家下屋敷の敷地内にあり、前田家下屋敷記念碑や板橋火薬製造所関係史跡のある公園。加賀公園を含む周囲一帯は、かつて加賀藩前田家下屋敷であり、その記念碑がある。また、前田家下屋敷内にあった築山は、板橋火薬製造所の電気式検速儀の火薬発射実験の的として利用され、軍事工業史跡の一つとして現存している。その他、公園の敷地内からは試験室・弾道管を見ることができ、製造所跡を引き継いだ**理化学研究所**板橋分所（仁科芳雄博士が宇宙線などを研究）も公園に隣接しており、板橋火薬製造所関連遺構をまとめて見ることができ、現在、同公園周辺を史跡公園として板橋区が整備中である。

憲兵詰所跡

みどころ：憲兵詰所跡

東京第一陸軍造兵廠十条工場から滝野川工場へと続く軍用貨物列車の滝野川工場の入り口近辺に立っている憲兵隊詰所跡とされる遺構。コンクリート製。解説板などはなく、民家に隣接する形で今も残る。

みどり橋緑地公園

見どころ：東京第二陸軍造兵廠記念モニュメント

旧前田家下屋敷の敷地内にある公園。加賀公園を含む周囲一帯は、かつて加賀藩前田家下屋敷であり、その敷地を利用し、東京第二陸軍造兵廠が作られた。日本の近代建築の歩みを伝えるものとして、第二造兵廠の大正期に作られた建造物の赤煉瓦壁面の一部をモニュメントとして遺している。

陸軍用地境界標

見どころ：陸軍用地境界標

陸軍用地と刻まれた境界標。東京第一陸軍造兵廠が所在した十条地域（北区中央公園・陸上自衛隊十条駐屯地付近）には第一造兵廠のものと思われる境界標が点在しており、マンション等が建つ住宅地の間を走る道路の脇に解説場板なく今もたたずんでいる。

北区十条地域の第一造兵廠関係史跡

見どころ：旧第一陸軍造兵廠本部（現：北区中央文化センター）、砲兵工廠ボイラー、赤煉瓦等
十条地域にあった東京第一陸軍造兵廠関係史跡。東京第二陸軍造兵廠（板橋、旧前田家下屋敷一帯）に隣接する東京第一陸軍造兵廠（北区十条）が北区中央公園・陸上自衛隊十条駐屯地を中心に存在していた。第一造兵廠本部庁舎は、太平洋戦争後、アメリカ軍に接収され、アメリカ軍東京兵器補給廠として利用され、現在は中央公園文化センターとして利用されている。陸軍時は赤煉瓦であったが、アメリカ軍に接収された後、白塗りとなり、今に伝わる。

また、第一陸軍造兵廠は、日露戦争後の弾薬増産の必要性から、小石川にあった東京砲兵工廠が十条に移転し、発展する形で形成された。この弾薬製造等の動力として英国のバブコック&ウイルコックス社製のボイラーが利用され、ボイラーのドラム・水管等が、遺物として北区中央公園文化センター横に展示されている。

自衛隊十条駐屯地周辺陸軍造兵廠関係史跡

見どころ：旧陸軍造兵廠赤煉瓦遺構（北区立中央図書館）・十条駐屯地赤煉瓦建造物
殉難慰霊碑、十条富士見中学校赤煉瓦塀等

陸上自衛隊十条駐屯地近辺にある東京第一陸軍造兵廠関係史跡。十条に所在した東京第一陸軍造兵廠は、太平洋戦争後にアメリカ軍に接収され、アメリカ軍東京兵器補給廠となり、その後、その敷地・施設を活用し北区中央公園及び陸上自衛隊十条駐屯地が創設された。陸上自衛隊十条駐屯地に隣接する北区立中央図書館は、十条兵器製造所の遺構を一部利用して作られており、外壁の赤レンガや館内からは内部の構造物や煉瓦の刻印等を見ることが出来る。

また、陸上自衛隊十条駐屯地入口の一つは、旧陸軍造兵廠十条兵器製造所の赤煉瓦遺構を活用している。自衛隊十条駐屯地と北区立中央図書館と隣接する公園のいなりプレーパークには、陸軍造兵廠東京工廠長の書による造兵廠関係者の殉難慰霊碑も遺っている。

そのほか、自衛隊十条駐屯地に近接する北区立十条富士見中学校の塀の一部は、旧陸軍造兵廠十条兵器製造所の赤煉瓦遺構が活用されており、往時の様子を偲ぶことができる。